

ジャーナリズム・政策研究所
講義要綱（2025年度）

コマスポ関連講座 I 【取材・編集、インタビューの基本を学びましょう】

(火曜日・4時限講義 ※前期のみ)

石元悠生

この講座では、主にジャーナリズム・政策研究所が発行する「駒大スポーツ新聞(コマスポ)」で活動する(したい)学生やコマスポに興味を持つ受講生を対象に取材や編集、インタビューなどの実践演習を行いながら学ぶ講座です。

例えば、「インタビュー実践」などでは、受講生が互いにインタビューを行い取材後にはどうやって相手の意図を引き出したか、質問内容が適切だったかなどを振り返ります。また、テーマに基づいて記事を執筆し、紙面のレイアウト、動画ニュース制作の手法や SNS を駆使した取材や情報発信方法なども演習(ゼミ)形式で行うことで実際のコマスポでの取材や編集に対応できるスキルを前期の間に身につけていきます。

講座は新聞記者として国内外のあらゆるニュースの現場で豊富な取材経験を有する実務家教員が担当し、ゲスト講師には一線で活躍するスポーツ新聞記者やコマスポの現役学生記者がテーマに応じて参画します。学生記者は、陸上や野球、サッカー、バレーボールなど駒大体育会の選手や大学各部門への取材経験からコマスポを作成する際の手順やプロセスについて取材のノウハウやコツを伝えます。

実際のコマスポの活動も講座の課外活動の一環として捉え、取材指導や記事添削を行っていきます。コマスポでの活躍を考える1、2年生、また現役コマスポ記者も取材や編集、インタビュースキルの向上を目指して積極的に参加することを薦めます。

石元 悠生 (いしもと・ゆうせい)

1967年生まれ。メディア学博士。ジャーナリスト。星槎大学客員教授、早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部講師。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁、フランス W 杯特派員などを担当、編集委員や Web ニュース編集長を務める。米国・コロンビア大学東アジア研究所客員研究員の後、東京都知事特別秘書として 2020 東京五輪招致活動に携わる。杉並区報道アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」(成文堂)、共著に「無責任の連鎖 耐震偽装事件」(産経新聞出版)などがある。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。OBには千葉ロッテマリーンズで活躍する石川柊太投手らがいる。

コマスポ関連講座Ⅱ【新聞編集の基礎－記事・見出しからレイアウト・写真の扱いまで－】

(火曜日・4時限講義 ※後期のみ) 眞 下 聡

この講座は、駒澤大学のコマスポ編集部員など、サークル活動などで実際に新聞を編集している・これから編集する方向けの実践的な新聞編集基礎講座です。取材・写真撮影、記事の書き方、見出し・レイアウト・写真の扱いなど、半期の8回でひとつおりの学べるようにしています。

コマスポ編集部員だけでなく、他大学の新聞サークルのみなさんの参加も大歓迎します。発行している新聞が一般紙でもスポーツ紙でも、どちらでも大丈夫な内容にしています。実際この講座は、過去2年間で筑波大学・一橋大学・東洋大学のみなさんが受講しています。

全8回の内容は、現時点では以下のようなことを考えています。

1. 新聞・新聞記事の基礎
2. 取材の仕方
3. レイアウト・紙面割り1
4. レイアウト・紙面割り2
5. 記事執筆・見出しの付け方1
6. 記事執筆・見出しの付け方2
7. 写真撮影・写真の扱い・トリミング
8. ネット展開・販売や広告

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが、zoomによるオンライン配信もしますので学外の方も参加できます。

※実際に新聞を編集しているサークルの方は、講座で参照しますのでその新聞のpdfを提供していただきます。

眞下 聡 (まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。1989年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。

2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに携わり、デジタル編集長として全社のデジタル展開にも取り組むなどネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年に朝日新聞を退社。「ニュース工房9Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャーナ研での講座は今年で6年目です。

【法とジャーナリズム】

(火曜日・1 時限講義)

竹 田 昌 弘

民主主義社会では、多数意見が常に正しいとは限らないので、それを正したり、少数意見を取り入れたりしなければなりません。人の体で言えば、多数決で国や社会を動かす政治（立法・行政）が体全体に血液を送るポンプの「心臓」と、酸素や栄養素を体内に行き渡らせる「動脈」だとすれば、法と証拠に基づいて多数意見の誤りを正し、少数者の権利を守る司法は、体内から二酸化炭素や老廃物を受け取る「静脈」のようなものです。報道・ジャーナリズムも憲法が定める国民権と「表現の自由」に依拠して、やはり静脈のような役割を果たしていると思っています。

こうした仕組みには、主権者である国民が定めた憲法（日本国憲法前文の最初の文章は「日本国民は…この憲法を確定する」となっている）によって、国や自治体などの公権力が暴走しないよう規律し、個人の自由と権利を守る「立憲主義」と、法が全ての公権力に優越する「法の支配」が不可欠です。

この講座は「法とジャーナリズム」を学ぶとともに、法とジャーナリズムの視点から社会の出来事も考察していきます。講義では、憲法とは何かやジャーナリズムに関する法律、ジャーナリズム倫理、それらに関する事件や裁判、社会問題を学びます。また現在進行中の事件なども取り上げます。なぜ起きたのか、法とジャーナリズムはどのように機能したか、そこから社会はどんな教訓を得たのかなどを話し合います。

昨年はつばさの党事件、裁判員制度15年、大谷翔平選手の水原通訳事件、横浜市教委の裁判傍聴妨害、鹿児島県警の内部告発と元部長逮捕、プロバイダー責任制限法の改正、Mrs. GREEN APPLEの「コロンブス」MV問題、袴田事件再審無罪、自民党総裁選、立憲民主党代表選、衆院選、国民民主党の躍進などを取り上げました。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。大阪社会部次長、社会部次長、司法キャップなどを経て2016年から編集委員兼論説委員。つくば国際大非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）、東京都世田谷区基本構想審議会委員なども務めた。著書『知る、考える裁判員制度』、編・共著『憲法ルネサンス』『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』など。

【言葉で学ぶか遊ぶか～ディベートゼミナール】

(火曜日・3時限講義)

石元 悠生

このゼミナールでは、書く、話す、聞く、伝えるのコミュニケーションスキルの向上を目指し、受講生がディベート（模擬討論）を通じて自らの考えを他者に正確に伝達し納得させることを学びます。多様性が問われる中で、自分とは異なる考えを持つ他者と論戦を行うことで、テーマに関わるさまざまな留意点を意識しながら効果的な表現に結び付け、相手との関係の中でしっかりした「学び」を繰り返し行います。例年1～3年生が参加しています。

講義で行うディベートは、その方法や効用を論理的に学ぶことではなく、言葉を駆使するゲームとして捉え、最初は個人対個人でできる簡単なディベートからはじめ、徐々にチーム同士でできるようになることを目指します。最終的にはディベート実践を行っている学内や他大のゼミやサークルとの間でディベート交流を積極的に行っていきます。ここ数年は学内の政治学科のゼミとディベート対戦を続けています。今年是他大とのインカレ交流を行うことを検討しています。

また、前期には、実際にディベートを行っている国会や都議会での論戦の現場や新聞社、テレビ局における編集・報道現場などを視察する予定で、国会議員や都議、一線の記者とのディスカッションも行います。ゼミナールの受講後にはレポート作成に関する能力や、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が向上するなどの成果が期待できます。将来の「就活の学び」で必要となる基礎をしっかりと身につけていきましょう。

石元 悠生（いしもと・ゆうせい）

1967年生まれ。メディア学博士。ジャーナリスト。星槎大学客員教授、早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部講師。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁、フランス W 杯特派員などを担当、編集委員や Web ニュース編集長を務める。米国・コロンビア大学東アジア研究所客員研究員の後、東京都知事特別秘書として 2020 東京五輪招致活動に携わる。杉並区報道アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」（成文堂）、共著に「無責任の連鎖 耐震偽装事件」（産経新聞出版）などがある。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。OB には千葉ロッテマリーンズで活躍する石川柊太投手らがいる。

【号外型新聞で劇的なニュース発信を体験しよう】

(水曜日・3時限講義 ※前期のみ)

眞 下 聡

みなさんは新聞の「号外」を手にしたことがありますか？

特大ニュースがあったとき駅前などで無料配布されるあれです。ニュースの一コマで見たことはあるかもしれませんが、実際に手にすることはほとんどないかもしれません。

題字+特大見出し+写真+簡単な本文で成り立つ新聞号外は、シンプルですがとても強いニュース発信力を持っています。また写真だけ、テキストだけと比べ、出来事の記録という点でも優れています。

この講座では、グーグルスライドを活用して実際に自分のオリジナル号外を作ります。Gメールを使うなど、グーグルアカウントを持っている方なら誰でも号外を作れるようになります。慣れればスマホだけで号外を作成できるようにもなります。

A4サイズのオリジナル号外ひな形などは講師が提供します。また見出しの付け方、写真の扱い方、記事の書き方についても授業の中でアドバイスします。

講師は新聞編集20年以上の新聞づくりのプロですが、私生活でも20年以上にわたり家族新聞を作ってきました。そのノウハウも含めてみなさんにアドバイスします。

家族新聞、部活動やサークル活動のニュース発信、アルバイトのチラシ作りなどで新聞号外にチャレンジしてみたい方、ぜひ受講してください。

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが zoom によるオンライン配信もしますので学外の方も参加できます。

※受講時にはPCを使います。事前にグーグルアカウントを取得するとともに、PCのブラウザとしてグーグル Chrome を使えるようにしておいてください（Gメールができれば大丈夫です）。実際にはグーグルスライド、グーグルフォーム、グーグルドライブなども使います。

眞下 聡 (まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。1989年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。

2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに携わり、デジタル編集長として全社のデジタル展開にも取り組むなどネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年に朝日新聞を退社。「ニュース工房9Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャナ研での講座は今年で6年目です。

【新聞記事と生成A I に学ぶ文章教室】

(水曜日・3時限講義 ※後期のみ)

眞 下 聡

新聞記事のいくつかには決まった型があり、そこに具体的なデータをはめ込んでいくことで一定の水準の記事が出来上がるものがあります。

また、雑報記事の第1段落(前文=まえぶん)は、記事全体の要旨として機能しています。

これらの特徴を知り実際に書いてみることで①具体的に書く②文章の型の大事さを知る③全体の要約を150字程度でまとめる——などを学ぶのがこの講座です。

さらに生成A Iで自分の文章をチェックすることで、文章力だけでなく生成A Iの活用法についても学べます(生成A IはChatGPTを使用します)。

講義は説明→実際に書いてみる→講評・生成A Iでチェック——といった形で進める予定です。学生のみなさんが受講しやすいよう、実際に書いてみる時間を講座の時間内に設けます。

実際に取り上げる記事は、現時点では以下のものを候補として考えています。

1. 事件・事故記事
2. 訃報(おくやみ記事)
3. イベント記事
4. 人物紹介記事

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが zoom によるオンライン配信もしますので学外の方も参加できます。

眞下 聡(まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。1989年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。

2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに携わり、デジタル編集長として全社のデジタル展開にも取り組むなどネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年に朝日新聞を退社。「ニュース工房9 Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャナ研での講座は今年で6年目です。

【学生・社会人のための編集と出版】

(水曜日・4 時限講義)

下 平 尾 直

読書や本が好きな方、自分で本や冊子を作ってみたい方、出版社に就職を希望する方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマやコミックで描かれるような華やかなギョーカイ？ それとも長い「出版不況」と報道されるように、暗くて地道で大変な仕事？

この講座では、本を企画して読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、出版業界の最新情報を織り込みながら、映像を観る、貴重な書籍や資料にふれてみる、校正や広告を作成する、現役で活躍中の専門家をゲストにお招きする……などを通して、具体的な本づくり＝編集・出版のあれこれを学びます。

* 講義内容は、受講者数の多寡などによって臨機応変に対応いたします

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968 年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014 年に、出版社 (株) 共和国を創業。2021 年には、出版粋会「第 18 回新聞社学芸文化賞」を受賞。駒澤大学ジャーナ研での講義は、今年で 12 年目になります。

2024 年 3 月現在、藤原辰史『ナチスのキッチン』(第 1 回河合隼雄学芸賞)、山家悠平『遊廓のストライキ』、川島昭夫『植物園の世紀』、東直子『レモン石鹼泡立てる』など、ジャンルを問わず 90 点以上を刊行。編著に、武田麟太郎『蔓延する東京』、『永山則夫小説集成』(全 2 巻) など多数があります。6 月頃に、初の自著『版元番外地』(コトニ社) を刊行予定。

【メディアリテラシー向上講座～事例から探るメディアのウソとホント】

(木曜日・2時限講義 ※前期のみ)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、この男は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」

バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど、様々なメディアから発信される情報に囲まれています。

これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。

講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組などの映像素材を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

さらに、「ジャニーズ性加害問題」や「フジテレビ問題」などについても、詳しく解説してゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

【時事コラムを書きながら考えたこと】

(木曜日・3時限講義)

桑原 聡

産経新聞に隔週で書いている時事コラム「モンテーニュとの対話」を素材に授業を行います。そのテーマを選んだ理由、書きながら感じた自分自身の変化、コラムの反響などについてお話ししたうえで、参加者のみなさんの意見や感想をうかがいながら、のんびりと議論ができればいいと考えております。私自身は保守的な考えを持つ人間ですが、授業では自分の考えを押し付けるのではなく、議論の素材として提供します。議論を通して私自身も新しい「気付き」が得られるのではないかと期待しています。

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、退職後も時事コラム「モンテーニュとの対話」や詩歌の新刊を紹介する「イチオシ詩歌」を産経新聞に連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひざにパパが読む絵本 50選』『わが子と読みたい日本の絵本 50選』(ともに産経新聞出版)、『〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ』(水声社)、新聞連載の「モンテーニュとの対話」をまとめた『寛容のすすめ』(海竜社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

【 あなたが商品とサービスを消費者に届けるには 】

(金曜日・2時限講義)

坂本 律行

消費者の手元に商品・サービスを届けるまでのあらゆるステップをマーケティングといいます。ここではこれらのマーケティング行動についてのリアルなお話をしていきます。

原材料や商品の生産地それらの物流。さらに消費する人々は国境を超えて存在しており、どこであれ何かが起これば直接間接の影響は大きいのです。単に情報発信されるだけで、海外からの観光客は増えますし、アメリカの天候異変でトウモロコシ生産量が減少すれば輸入牛肉が減少し日本の牛丼の価格は2倍になるかも知れず、輸入穀物を飼料としている国内酪農農家は乳牛に与える飼料が高すぎて廃業してしまうかもしれないということを意味しています。

この講座では、受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、原材料を確保しないといけない資材担当者であったなら、自身が商品を販売しなければならない営業マンであったならと講義の中で考えてもらおうと思っています。講義の間だけ企業競争を生きてもらうつもりです。私は企業の行動や事実を見てきたようにお話ししていきますので、みなさんは購入してくれる消費者のことを考え、生産や物流がスムーズにゆくように、あらゆることを判断しないといけない立場に身を置いてください。

仮想の企業競争の経験は大学生のみならず中高年のみなさんの期待も裏切らないはずです。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきました。マーケティングリサーチ・分析業務のうち消費財メーカーのプロダクトマーケティングの他に資源エネルギー庁や沖縄県庁、川崎市など官公庁の調査も行ってきました。株式会社坂本総合研究所代表。

【ニュースからドキュメンタリーまで テレビをどう作り何を伝えるか】

(金曜日・4時限講義)

田中 剛志

テレビは、どのように作られ、何を伝えているのでしょうか。ニュースからドキュメンタリーまで、人々の「知らない」世界を裏付け取材しながら伝え続けています。取材や制作の手法は、70年のテレビの歴史の中で確立されてきたものがあります。どのように作っているのか、対面でブレインストーミングしながら短尺のものから長尺のものまでその方法や見方を含めてお伝えしていきます。可能であれば、動画でニュースや企画を制作することも検討したいです。最終的には志のある作り手を目指していただきたいと思います。

田中 剛志 (たなか・ごうし)

1960年東京都生まれ 1986年日本放送協会入局 報道局で、クローズアップ現代、おはよう日本、ニュースウォッチ9等担当。ニュースからNHKスペシャル等のドキュメンタリーまで報道系の番組を制作。「NHKスペシャル 解かれた封印～米軍カメラマンが見たNAGASAKI～」は、第35回放送文化基金ドキュメンタリー番組大賞・シカゴ国際映画祭金賞受賞。現在、ケーブルテレビのニュース情報番組や防災防犯関連番組のアドバイザーも務める。また、災害情報学会に所属し、「一人の命も取りこぼさない」伝え方の研究を進めている。

名誉教授講座 【まちづくりと民主主義】

(木曜日・4時限講義 ※前期のみ)

早川 純貴

現在、地方政治の大きな課題の一つは、地方都市の賑わい、活気をどうやって取り戻していくか、ということである。本講義においては、まちづくりに関わる各地域の取り組みや迷惑施設問題を取り上げつつ、地方都市の再生、そして行政との関係について住民主体の視点から考えていく。

まちづくりの主体は住民である。それに行政や企業、NPO などがかかわっていく。その過程を学ぶことで、将来君たちが社会人として、また住民のひとりとして、まちづくり、まちおこしに関わってもらえれば、と考える。以下、講義の概要である。4つのパートに分けて進める。

- ① 街の賑わいとは：ジェーン・ジェイコブズの議論を中心に
- ② 駅前商店街衰退の背景と再生：滋賀県長浜の「黒壁」を例に
- ③ 迷惑施設の設置をめぐる：NIMBY と多数決民主主義
- ④ 熟議の民主主義：杉並区と武蔵野市の事例

早川 純貴 (はやかわ・よしき)

1983年3月 大阪大学大学院法学研究科 博士前期課程修了 (公法学専攻・法学修士)

1987年3月 同研究科 博士後期課程 単位取得退学

職歴

1987年4月 駒澤大学法学部専任講師

1991年4月 駒澤大学法学部助教授

1993年4月から1994年9月 ドイツ・トリアー大学に客員研究員として留学

2000年4月 駒澤大学法学部教授

2025年3月 定年退職

2025年5月 名誉教授

名誉教授講座 【時事問題】

(木曜日・4時限講義 ※後期のみ)

浦田 早苗

時事問題を取上げながら、関連する事件問題を解説し、話し合う授業です。

序論；時事問題を学ぶ意義

痴漢冤罪など

不同意性交等罪など

危険運転致死傷罪など

婚約など

沖縄問題など

ジェンダーギャップなど

日韓問題など

イスラエル・パレスチナなど

身近な罪など

浦田 早苗 (うらた・さなえ)

1977年 学習院大学 法学部 政治学科 卒業

1986年 早稲田大学 大学院 政治学研究科 博士後期課程 単位修得

1986年 駒澤大学 法学部 政治学科 専任講師

1990年 同 助教授

1996年 同 教授

2025年 同 名誉教授

2025年度 ジャナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00～14:20	法とジャーナリズム (竹田昌弘)			
2 時限目 14:50～16:10			【前期】 メディアリテラシー向上講座～ 実例から探るメディアのウソとホント (玉手義朗)	あなたが商品とサービスに届けるには (坂本律行)
3 時限目 16:30～17:50	言葉で学ぶか遊ぶか～ディベートゼミナール (石元悠生)	【前期】 号外型新聞で劇的なニュース発信を体験しよう (真下聡) 【後期】 新聞記事と生成AIに学ぶ文章教室 (真下聡)	時事コラムを書きながら考えたこと (桑原聡)	
4 時限目 18:00～19:20	【前期】 取材・編集、インタビューの基本を学びましょう (石元悠生) 【後期】 新聞編集の基礎-記事・見出しからレイアウト・写真の扱いまで- (真下聡)	学生・社会人のための編集と出版 (下平尾直)	【前期】 まちづくりと民主主義 (早川純貴) 【後期】 時事問題 (浦田早苗)	ニュースからドキュメンタリーまで テレビをどう作り何を伝えるか (田中剛志)

【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）です。

前期・・・5月13日（火）～7月11日（金）

後期・・・9月16日（火）～11月14日（金）

※6月10日(火)～13日(金)、9月23日(火)、10月15日(火)、10月30日(木)～10月31日(金)
は休講です。

【開講方式】

令和7年度は基本的に対面にて開講。講師によりオンラインにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはZoomでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、wifi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。

*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/kjps/lecture-guidance.html>



駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所 令和7(2025)年度 講義カレンダー(全16回)

前期:5月13日～7月11日

火	水	木	金
5月13日	5月14日	5月15日	5月16日
火①	水①	木①	金①
5月20日	5月21日	5月22日	5月23日
火②	水②	木②	金②
5月27日	5月28日	5月29日	5月30日
火③	水③	木③	金③
6月3日	6月4日	6月5日	6月6日
火④	水④	木④	金④
6月10日	6月11日	6月12日	6月13日
6月17日	6月18日	6月19日	6月20日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
6月24日	6月25日	6月26日	6月27日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
7月1日	7月2日	7月3日	7月4日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
7月8日	7月9日	7月10日	7月11日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

後期:9月16日～11月14日

火	水	木	金
9月16日	9月17日	9月18日	9月19日
火①	水①	木①	金①
9月23日	9月24日	9月25日	9月26日
	水②	木②	金②
9月30日	10月1日	10月2日	10月3日
火②	水③	木③	金③
10月7日	10月8日	10月9日	10月10日
火③	水④	木④	金④
10月14日	10月15日	10月16日	10月17日
火④		木⑤	金⑤
10月21日	10月22日	10月23日	10月24日
火⑤	水⑤	木⑥	金⑥
10月28日	10月29日	10月30日	10月31日
火⑥	水⑥		
11月4日	11月5日	11月6日	11月7日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

※ 教場：深沢キャンパス講義室2-1／オンライン（ZOOM）

※ 教場は、学会などの都合により変更になる場合もございます。

※ 休講の場合は予め事務室（03-6381-8901）までお知らせください。

※ 休講の際の振替講義は原則として行いません。

※ コピー機のご使用（無料）は研究所事務担当までお申し出のうえ、ご利用ください。

※ 大学の授業実施カリキュラムに則った講義スケジュールのため、祝日の開講・平日の休講が、混在していることがあります。ご注意ください。

駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所事務局

TEL 03-6381-8901

受付時間：月～金10:00～12:30／13:30～17:00

※大学行事に則り変則的な休業日がございます